

# 誰もがスポーツ観戦を楽しむための情報提供のあり方

## —観戦時の情報入手が困難な聴覚障害者等の視点から—

上席主任研究員 水野 映子

### 目次

- 1. スポーツ観戦時の情報アクセスを考慮することの重要性 ..... 30
- 2. 聴覚に障害のある大学生のスポーツ観戦の実態と意向 ..... 30
- 3. スポーツイベントを観戦する聴覚障害者への情報提供の事例 ..... 36
- 4. より多くの人々がスポーツ観戦を楽しむための情報提供方法は？ ..... 40

### 要旨

①誰もがスポーツを楽しめる環境をつくる上で、観戦時の情報へのアクセスのしやすさを考慮することは重要である。そこで、スポーツを観戦する際の情報入手が特に困難と思われる人々の中から聴覚障害者に焦点を当て、その問題の解決方法を検討するためにアンケート調査および事例調査を実施した。

②聴覚に障害のある大学生を対象としたアンケート調査では、スポーツ観戦時の不便・不満・不安として「アナウンスなどの音声聞こえないので、試合の詳しい状況がわからない」（86.8%）が最上位となった。また、スポーツ観戦時にあればよいと思うサービス・情報・設備としては、「アナウンスなどの音声の情報を、電光掲示板・スクリーンに文字で表示する」（88.7%）をはじめ、文字による情報提供に関する回答が多くあげられた。

③2016年に開催された第16回全国障害者スポーツ大会では、聴覚に障害のある観戦者への情報提供方法に着目した。この大会では、聴覚障害者優先の観客席（情報保障席）が設けられ、そこに設置されたモニターに音声アナウンスなどの内容を文字・手話で映す、スタッフが筆談・手話で対応するなどの方法が用いられた。

④東京オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめ、今後実施されるスポーツイベントでは、ユニバーサルデザインの観点で、電光掲示板やモニター、情報端末などを活用した情報提供がおこなわれれば、聴覚障害者を含むより多くの人々がスポーツ観戦を楽しめると考えられる。

キーワード：聴覚障害、情報保障、ユニバーサルデザイン

## 1. スポーツ観戦時の情報アクセスを考慮することの重要性

2011年に施行されたスポーツ基本法には、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」であり、全ての国民が「スポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない」と記されている。ラグビーワールドカップ2019や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、障害の有無などにかかわらず誰もがスポーツを楽しめる環境をつくることは、近年ますます重要となっている。

スポーツの「する」「観る」「支える」という要素のうち「する」に関しては、スポーツ基本計画において「障害等を問わず、広く人々がスポーツに参画できる環境を整備することが基本的な政策課題」とされ、「障害者スポーツの振興」が重点施策のひとつになっている（文部科学省 2016）。また、「観る」「支える」に関しても、障害者が「する」スポーツを一般の人が「観る」、あるいはボランティアとして「支える」という視点から、その理解促進や関心喚起などのための取り組みがおこなわれている。

一方、障害者自身が「観る」という視点では、例えば競技場での車いす使用者用の座席・トイレの設置や経路の確保などのように、物理的なアクセスのしやすさが考慮されることは多い。それに比べると、聴覚・言語・視覚に障害のある人などがスポーツを「観る」際の情報入手・コミュニケーションのしやすさが注目されることは少ない。だが、それらが難しいために観戦を十分楽しめない人も少なからずいると考えられる。

そこで今回は、スポーツ観戦時の情報入手やコミュニケーションに着目し、それらが特に困難と思われる人々の中から聴覚障害者に焦点を当てた。次の2章では、聴覚に障害のある大学生に対するアンケート調査の結果から、彼らのスポーツ観戦の実態や問題点、意向などを概観する。また3章では、全国障害者スポーツ大会を観戦する聴覚障害者に向けた情報提供の具体的事例を紹介する\*<sup>1</sup>。最後の4章では、これらの結果をあわせてみた上で、聴覚障害者を含むより多くの人々がスポーツ観戦を楽しめるようにするための情報提供のあり方について検討する。

## 2. 聴覚に障害のある大学生のスポーツ観戦の実態と意向

### (1) アンケート調査の方法

前述のアンケート調査は、2016年12月、国立大学法人 筑波技術大学 産業技術学部の学生201人（2013～16年度入学者）を対象に、インターネット上の調査フォームに回答する方法で実施した。回収数（率）は71人（35.3%）である。

同大学は聴覚障害者・視覚障害者のための大学であり、産業技術学部では聴覚に障害のある学生が学んでいる。

## (2) 回答者の属性

回答者の属性は図表1の通りである。聞こえない・聞こえにくいことがわかった時期は、「産まれた時～3歳くらいの間」が大半である。聴力は両耳100dB以上（概ね身体障害者手帳2級相当）が半数を超える。

手話の読み取りが「できない」回答者はおらず、「できる」回答者が約3分の2を占める。文章を読むことが苦手（「とても苦手」または「やや苦手」）と感じる回答者は14.1%のみであり、残りは苦手だと感じていない。

## (3) スポーツ観戦の実態

今回の調査では、スポーツの試合を競技場などで実際に観戦すること、およびテレビで観戦することの両方について尋ねたが、本稿では前者に焦点を絞るため、後者の結果は割愛する。よって以下でスポーツの「観戦」と表記した場合には、競技場などでの試合の観戦を指す。

まず、今までのスポーツ観戦の経験を質問した結果では、95.8%が「観戦したことがある」と答えた（図表2）。そう答えた人に対し、最近観戦したのはいつか尋ねたところ、「1年以内」が36.8%となった。また、今までに観戦したことがある種目は「野球」（80.9%）が最多であり、一緒に観戦したことがある人は「聴覚障害の友人」（80.9%）、「健聴の家族」（64.7%）の順に多かった。

図表1 アンケート調査の回答者の属性

(単位:%)

性別	男性	57.7
	女性	42.3
聞こえにくい、または聞こえないことがわかった時期	産まれた時～3歳くらいの間	94.4
	それ以降	5.6
聴力(注2)	両耳100dB以上	54.9
	両耳90dB以上	26.8
	上記以外	18.3
手話の読み取りができるか	できる	66.2
	難しい時がある	29.6
	難しい時が多い	4.2
	できない	0.0
文章を読むことが苦手だと感じるか	特に感じない	53.5
	あまり感じない	32.4
	やや苦手	12.7
	とても苦手	1.4

図表2 スポーツ観戦の実態

(単位:%)

観戦経験	観戦したことがある	95.8
	観戦したことはない	4.2
↓以下は「観戦したことがある」と答えた68人が回答		
最近の観戦時期	1年以内	36.8
	1～3年前	38.2
	3年以上前	25.0
観戦経験がある種目 <複数回答> ※上位5項目を掲載	野球	80.9
	陸上競技(マラソン・駅伝以外)	51.5
	卓球	48.5
	バレーボール	47.1
	サッカー、フットサル	36.8
観戦の同行者 <複数回答>	聴覚障害の友人	80.9
	聴覚障害の家族	13.2
	その他の聴覚障害者	11.8
	健聴の友人	29.4
	健聴の家族	64.7
	その他の健聴者	13.2
一人で	20.6	

注1：断りのない限り、回答者数は71人（以下の図表も同じ）

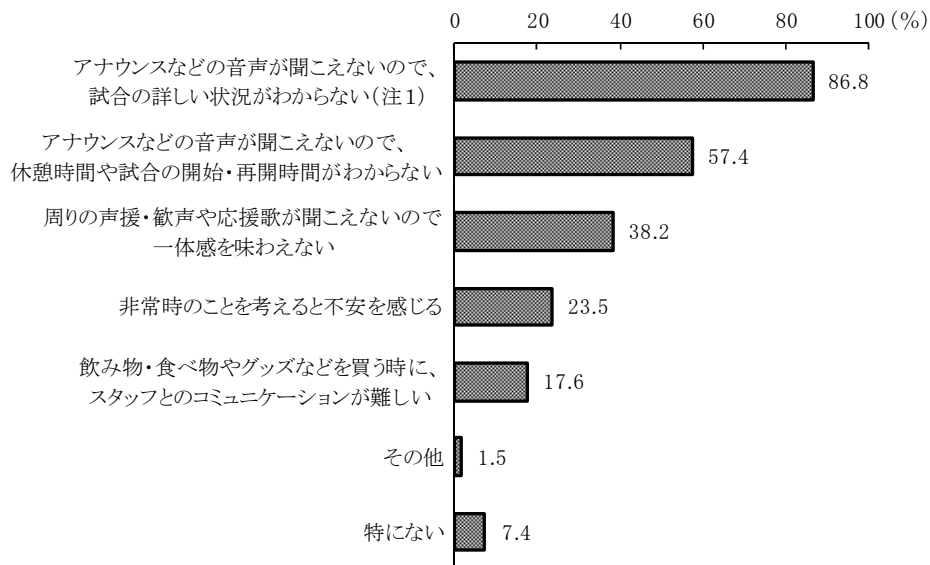
注2：左耳・右耳それぞれが何dB（デシベル）台か尋ねた結果をもとに分類した。「両耳90dB以上」は両耳とも90dB以上の人から両耳とも100dB以上の人を除いたもの、「上記以外」は全体から両耳とも90dB以上の人を除いたもの。なお、身体障害者手帳の聴覚障害の等級は、障害が重い順に2・3・4・6級に分かれており、「両耳100dB以上」は2級、「両耳90dB以上」は3級に概ね相当する。

#### (4)スポーツ観戦時に感じる不便・不満・不安

スポーツを競技場などで実際に「観戦したことがある」と答えた人に対し、音声がかげえないことや聞こえにくいことが原因で、観戦時に不便・不満・不安を感じたことや残念に思ったことを尋ねた。

図表3の通り、最も多かったのは「アナウンスなどの音声が聞こえないので、試合の詳しい状況がわからない」(86.8%)であり、次が「アナウンスなどの音声が聞こえないので、休憩時間や試合の開始・再開時間がわからない」(57.4%)となった。いずれも、アナウンスなどが聞こえないことによる情報不足の問題である。また、3位には「周りの声援・歓声や応援歌が聞こえないので一体感を味わえない」(38.2%)という問題があがっている。4位の「非常時のことを考えると不安を感じる」(23.5%)に関しては、災害や事故の発生時にアナウンスや警報ベルが聞こえないこと、周囲とのコミュニケーションが図りづらいことなどに、回答者が不安を感じていると思われる。

図表3 スポーツ観戦時に、音声が聞こえない・聞こえにくいことが原因で感じた不便・不満・不安  
〈複数回答〉



注1：「アナウンスなどの音声が聞こえないので、試合の詳しい状況（試合の進行・結果、出場選手の情報など）がわからない」の略

注2：スポーツを「観戦したことがある」と答えた68人が回答

次に、音声が聞こえないことや聞こえにくいことが原因で観戦時に不便・不満・不安を感じたことや残念に思ったことを、自由回答形式で具体的に尋ねた。その結果を図表4でみると、前出の図表3で1・2位だったアナウンスなどの音声に関しては、試合後のインタビューや試合の実況がわからないとの意見があった。実際には実況がアナウンスされていない競技もあるが、どのような内容のアナウンスがあるのか、あるいはそもそも音声のアナウンスがあるのかどうかを回答者が知らない場合もあると考えられる。また、3位の応援に関しては、声援・応援歌の内容がわからないことや

手拍子のタイミングがつかめないこと、それによって応援に参加しづらいことや参加したいという気持ちが起こらないことなどがあげられた。

図表4 スポーツ観戦時に、音声が届かない・聞こえにくいことが原因で感じる不便・不満・不安の  
具体的内容(自由回答より抜粋)

<p>●アナウンスなどの音声について</p> <p>*選手や監督のインタビュー内容がわからない[野球、バレー、バスケ]<sup>注1</sup></p> <p>*閉会式などで&lt;中略&gt;コメントがわからないのでつまらない。また、テレビでは字幕があるのでファウルなどの内容がわかるが、実際に見ている時は何が起きているのかよくわからない。[バレー]</p> <p>*実況がわからないのが一番不満[野球、サッカー、バレー、バスケ、卓球、バドミントン、格闘技]</p> <p>*音声案内や状況放送で何を言っていたのかわからないときがある[野球、サッカー、バレー、卓球、マラソン、陸上、体操]</p> <p>*あらかじめわかっていること(例:選手情報)や常に表示するもの(例:試合の時間、点数)は既に掲示板などに表示されていることが多いが、実況や連絡の放送は音声のみとなっており、リアルタイムの面に対する保障が乏しい[野球、バスケ、バドミントン、陸上]</p> <p>●応援歌・声援について</p> <p>*周りの声援・歓声や応援歌は聞こえるが、何を言っているのかわからないので、一緒に応援しようと思えない[野球、サッカー、マラソン、陸上]</p> <p>*プロ野球などはここぞ！というときに応援バットを用いた手拍子がある。自分も周りを見ながらリズムを合わせようとするが、そのせいで肝心の試合観戦に集中できない。[野球、サッカー、卓球、格闘技]</p> <p>*応援歌の内容がネットにはあったが、入り口で配られるパンフレットには載っていなかった[野球、サッカー、バレー、卓球、マラソン、陸上、体操]</p>
--

注1：〔 〕内は、回答者が観戦したことがあるスポーツの種目。「サッカー」「バレー」「バスケ」「マラソン」「陸上」「体操」「格闘技」は、それぞれ「サッカー、フットサル」「バレーボール」「バスケットボール」「マラソン・駅伝」「陸上競技(マラソン・駅伝以外)」「体操(新体操を含む)」「ボクシング、レスリング、格闘技」の略。

注2：原則として原文のまま掲載。ただし、文意を損なわない程度に修正・補足などをおこなった箇所がある。

## (5)スポーツ観戦に対する意向

### 1)あればよいと思うサービス・情報・設備

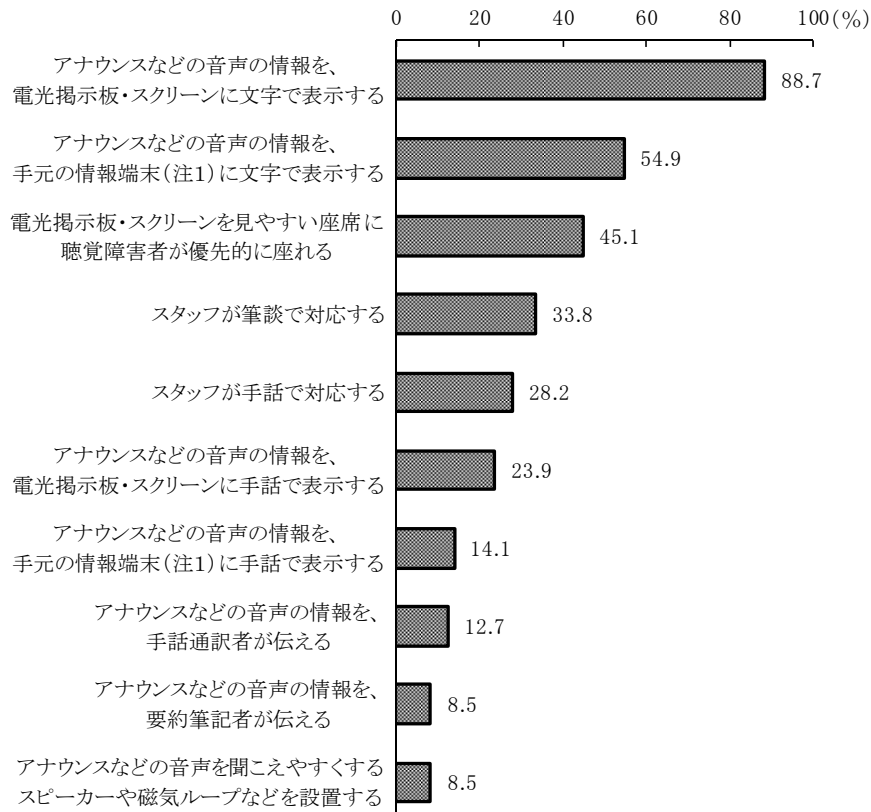
聞こえない人や聞こえにくい人がスポーツを観戦する時に、あればよいと思うサービスや情報、設備を複数回答で尋ねた。図表5に示す選択肢のうち、電光掲示板等での文字・手話の表示、聴覚障害者が優先的に座れる座席、要約筆者・手話通訳者による情報伝達、スタッフによる筆談・手話での対応、磁気ループ\*<sup>2</sup>の具体例は、3章で紹介する。

あればよいと思うサービス・情報・設備として圧倒的に多かったのは「アナウンスなどの音声の情報を、電光掲示板・スクリーンに文字で表示する」(88.7%)である。続いて、「アナウンスなどの音声の情報を、手元の情報端末に文字で表示する」(54.9%)が多かった。いずれも、音声の代わりに文字を表示する情報提供の方法である。一方、手話の読み取りができる回答者が多いにもかかわらず、「アナウンスなどの音声の情報を、電光掲示板・スクリーン/手元の情報端末に手話で表示する」など手話による情

報提供があればよいという回答は、文字に比べると少なかった。

また、「アナウンスなどの音声を聞こえやすくするスピーカーや磁気ループなどを設置する」をあげた回答者の割合は8.5%と低かった。この理由としては、聴覚障害の程度が比較的重い回答者が多いために音声を聞こえやすくすることのニーズが少ないことに加え、磁気ループなどのシステムの認知度が低いことが考えられる。

図表5 聴覚障害者のスポーツ観戦時に、あればよいと思うサービス・情報・設備＜複数回答＞



注1：調査票では「『情報端末』とはスマホ（スマートフォン）、タブレットなどを指します」と注記した

注2：選択肢「その他」「特にない」に対する回答はなかったため、図表では省略

次に、聞こえない人や聞こえにくい人が観戦する時に、具体的にどのようなサービスや情報、設備があるとよいと思うか、自由回答形式で尋ねた結果を図表6に示す。

情報提供の媒体としては、図表5の設問の選択肢と同様に、電光掲示板・スクリーンや、情報を表示できるアプリ（アプリケーションソフトウェア）を搭載した情報端末についての回答があった。

それらを通じて提供してほしい情報の種類としては、文字という意見が多かった。また、音声を文字に変換する音声認識などのシステムもあげられた。

提供する情報の内容に関しては、選手名や試合の実況、災害・事故などの緊急時の情報をリアルタイムに伝えてほしい、応援歌の歌詞が表示されればより楽しめる、などの意見があった。

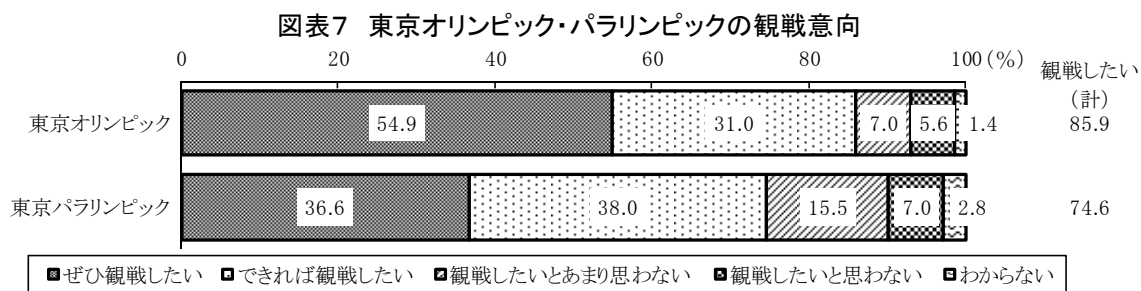
図表6 聴覚障害者のスポーツ観戦時に、あればよいと思う具体的なサービス・情報・設備  
(自由回答より抜粋)

<p>●<b>情報提供媒体</b></p> <p>○<b>電光掲示板・スクリーン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 電光掲示板といった、目で見られる情報機器があると助かる〔野球、サッカー、バレー、卓球、陸上〕</li> <li>* スクリーンがあった方がわかりやすい〔野球、バレー、卓球、陸上〕</li> </ul> <p>○<b>情報端末</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* タブレット等の貸し出し〔野球、ソフトボール、サッカー、ラグビー、バレー、バスケ、テニス、ゴルフ、マラソン、柔道・剣道・空手、スケート・フィギュアスケート〕</li> <li>* アナウンスを表示するアプリ〔野球、バスケ〕</li> <li>* スクリーンあるいは手元の端末に出すのであれば、試合の経過情報を提供するアプリを作成して、そちらとも情報を共有できるようにすれば、場外の一般人の楽しみも増えるのではないかと。〔野球、ラグビー、バレー、卓球、相撲〕</li> </ul> <p>●<b>情報の種類</b></p> <p>○<b>文字</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 字幕表示〔野球、テニス〕</li> <li>* 字幕があれば最低限助かります〔バレー、卓球、マラソン〕</li> <li>* 字幕があれば助かる〔野球、サッカー、バレー、バスケ、卓球、バドミントン、格闘技〕</li> <li>* 目に見える文字情報を一番に望む〔野球、サッカー、マラソン、陸上〕</li> <li>* 少なくとも字には換えてもらうサービスがあるとよい〔野球、サッカー、バレー、卓球、マラソン、陸上、体操〕</li> <li>* 基本的に文字情報での伝達が最もよい。手話は確かに聴覚障害者にとっては有効だが、手話を習い始めたばかりの聴覚障害者にとっては敷居が高すぎる。〔野球、ラグビー、バレー、卓球、相撲〕</li> <li>* アナウンスや実況を文字情報に変換する情報保障システム〔野球、卓球、マラソン、陸上〕</li> <li>* 音声認識の精度がより高いものであれば、ニュース番組のようにリアルタイムでの字幕表示がほしい〔野球、サッカー、卓球、格闘技〕</li> <li>* アナウンスなどの音声の情報を文字に変換できる設備〔野球、マラソン、陸上〕</li> </ul> <p>○<b>手話</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 手話通訳ができるスタッフの配置〔野球、バスケ〕</li> </ul> <p>●<b>情報の内容</b> ※上記の「情報提供媒体」と重複する記述は<u>下線</u>、「情報の種類」と重複する記述は<u>波線</u>で示した</p> <p>○<b>選手・試合の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 選手名、休憩を教えてください〔野球、バレー、卓球、陸上〕</li> <li>* アナウンスで選手団や選手の紹介があるらしいが、わからないため選手のことを知る事ができない。なので、その情報を<u>文字</u>にして映し出す<u>電光掲示板</u>があるといい。〔野球、水泳、陸上、体操〕</li> <li>* 試合を一時的に止めるような場面の際に、なぜそのような処置を取ったのかの実況が欲しい〔野球、バレー、卓球、マラソン、陸上〕</li> <li>* 審判の判断、タイムなどを瞬時に<u>文字</u>で見えるようにしてほしい〔野球、バレー、陸上、格闘技、スケート・フィギュアスケート〕</li> <li>* いま決勝なのか？誰が戦っているのか？アナウンスの内容を知りたい。〔野球、バレー、卓球、陸上、柔道・剣道・空手〕</li> </ul> <p>○<b>緊急情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 災害情報〔野球、マラソン、陸上〕</li> <li>* 何かのアクシデントや事故の時、周りがざわざわする時が一番ついていけないので、<u>電光掲示板</u>の<u>文字</u>で今こういうことが起きています、と教えてください。〔野球、水泳、マラソン、陸上〕</li> </ul> <p>○<b>応援歌</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 観客が応援歌を歌う時&lt;中略&gt;に<u>電光掲示板</u>にカラオケのように<u>歌詞</u>を目で追えるような表示があればより楽しめると思う。〔野球、サッカー、卓球、格闘技〕</li> </ul>
---

注：図表4の注と同じ

## 2) 東京オリンピック・パラリンピックの観戦意向

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを競技場などで観戦したいと思うか尋ねた結果を図表7に示す。観戦したい（「ぜひ観戦したい」と「できれば観戦したい」の合計）と答えた割合は、東京オリンピックに関しては85.9%、東京パラリンピックに関しては74.6%であった。今回の回答者の東京オリンピック・パラリンピックの観戦意向はかなり高いといえる。



## 3. スポーツイベントを観戦する聴覚障害者への情報提供の事例

前章では、聴覚に障害のある大学生の多くがスポーツ観戦時にアナウンスなどの音声の情報が入らないことによる不便や不満を感じており、その解消のために電光掲示板での文字情報の提供などがされるとよいと思っていることを示した。本章では、スポーツを観戦する聴覚障害者に対する情報提供のあり方を検討する上での参考とするため、障害のある観戦者や選手に向けてさまざまな取り組みをおこなっている、全国障害者スポーツ大会の事例を紹介する。

### (1) 全国障害者スポーツ大会の概要

全国障害者スポーツ大会は、障害者の社会参加の推進や国民の障害に対する理解を深めることを目的に、毎年、国民体育大会（国体）終了後に開催される。第16回目の全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」は、2016年10月22～24日に岩手県で開催された。この大会では、身体障害（聴覚障害、視覚障害、肢体不自由、内部障害など）、知的障害、精神障害のある選手が競技に参加した。

### (2) 聴覚に障害のある観戦者への情報提供の事例

#### 1) 情報提供のための設備

この大会の各会場の観客席には「情報保障席」が設けられ、聴覚に障害のある観戦者に対して手話や文字などによる情報提供（情報保障）がおこなわれた。情報提供の方法は会場ごとに異なるが、一部会場の情報保障席には、手話・文字を映すモニターや、補聴器を通じて音声アナウンスを聞こえやすくするための磁気ループが設置され



た（写真①②③）。

また会場によっては既設の電光掲示板があり、来場者全体に向けた情報提供がおこなわれた。北上陸上競技場で開・閉会式がおこなわれた際には、電光掲示板にも手話および文字が映された（写真⑤）。

## 2) 情報提供を担う人材と情報提供の方法

聴覚障害者への情報提供を担ったのは、情報支援ボランティアと呼ばれるスタッフである。競技場内や総合案内所などで来場者に手話や筆談で応じるスタッフ、およびアナウンスなどの音声の内容を手話で伝える手話通訳者や手書きで伝える要約筆記者は各会場に、パソコンで文字入力して伝えるパソコン要約筆記者は一部会場に配置された。

会場でアナウンスが流れた場合、手話通訳者は情報保障席の観戦者に向かって通訳をおこなう（写真④）か、別室で通訳をおこない情報保障席に設置されたモニターに映された（写真①②③⑤）。要約筆記者も同様に、アナウンスなどの内容を情報保障席でホワイトボードに示す（写真①②③④）か、モニターに映すための文字を別室で手書き（写真②）またはパソコンにより入力（写真①③⑤）した。手書きの場合には、アナウンスの内容を要約して書いたり、あらかじめ用意した用紙やホワイトボードに選手・チーム名や競技の結果を記入したりした。

なお、音声アナウンスの内容は、現在おこなわれている競技の種目や出場選手・チーム・審判名、競技の結果（試合の勝敗や記録など）、表彰式やイベントの案内などがあった。

### 写真 全国障害者スポーツ大会における情報提供の様子

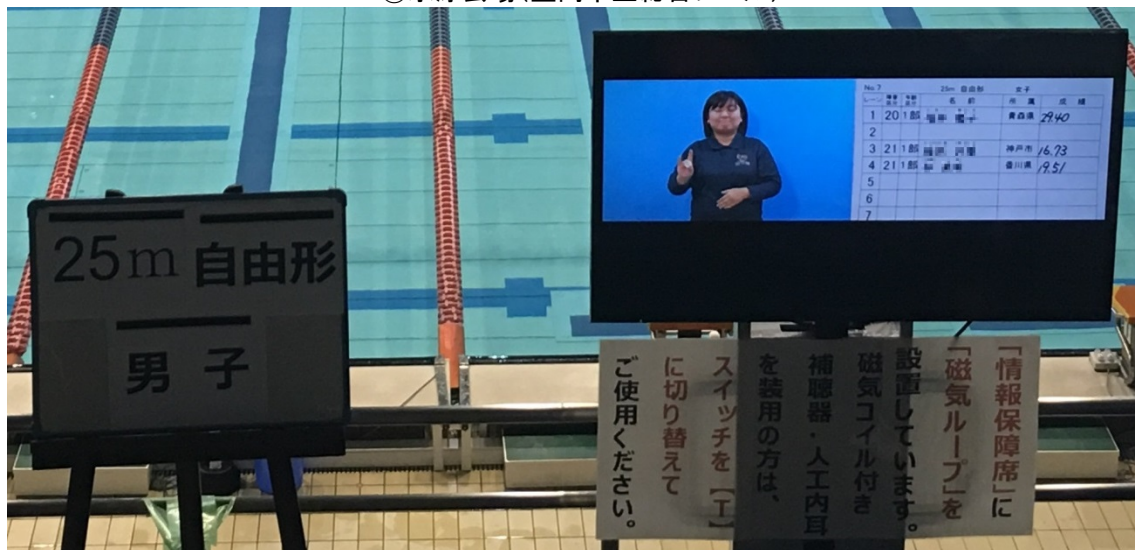
#### ①バレーボール会場(花巻市総合体育館)



情報保障席のモニター（写真中央）には、音声アナウンスの内容が手話および文字で映された。このモニターには出場チームと審判の氏名が表示されている。

また、ホワイトボード（写真左）には、現在の出場チームに関する情報が掲示されている。

②水泳会場(盛岡市立総合プール)



情報保障席のモニター(写真右)には手話、および記録を手書きした用紙(選手名などがあらかじめ印刷されたもの)が映されている。

また、ホワイトボード(写真左)には、現在おこなわれている種目が掲示されている。

③卓球会場(奥州市総合体育館)



情報保障席の床には、磁気ループ(写真中央下から右斜め前に張られているケーブル)が設置された。

また、この会場でもモニター(写真中央)が設置され、写真①と同様の情報提供がおこなわれた(写真撮影時には音声アナウンスがなかったため、モニターは消えている)。

## ④陸上競技会場(北上陸上競技場)



情報保障席にモニターが設置されていない会場では、情報支援ボランティアが観戦者に向かって手話通訳をしたり、ホワイトボードを用いて情報を提供したりした。

情報支援ボランティアは、それぞれ「手話」「要約筆記(手書き)」「筆談」「PC要約」と明記されたユニフォームを着用していた。なお写真にはないが、競技場内や集合場所などで選手に対する情報提供(情報保障)を担う情報支援ボランティアも大勢いた。

## ⑤開会式会場(北上陸上競技場)



開・閉会式では、大型の電光掲示板に手話と文字(それぞれ画面の右と下)が映された。

## 4. より多くの人々がスポーツ観戦を楽しむための情報提供方法は？

スポーツ観戦時の情報へのアクセスのしやすさという視点は、ともすると見落とされがちだが、今後、東京オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめとするスポーツイベントを企画・運営したり、競技場などを新設・改修したりする際に、その視点を考慮することは重要と考えられる。本章では、2・3章で述べた調査結果をふまえ、聴覚障害者を含むより多くの人々がスポーツ観戦を楽しむための情報提供のあり方について検討・提案する。

### <「ユニバーサルデザイン」の観点での情報提供を>

聴覚に障害のある大学生を対象としたアンケート調査では、聞こえないことによってスポーツの観戦時に不便や不満、不安を感じている人が多いことが示された。具体的には、観戦時にアナウンスなどの音声聞こえないために、試合に関する詳しい情報が得られないという意見がかなりあった。この問題に対しては、アナウンスなどの音声を通じて提供される情報、例えば試合の途中経過や結果、スケジュール、出場選手・チーム・審判の案内、試合後の選手へのインタビューや表彰式についての連絡、緊急時の情報などを、聴覚障害者に文字・手話などでリアルタイムに提供するという解決策がある\*<sup>3</sup>。

その具体例として、2016年の全国障害者スポーツ大会では、聴覚障害者優先の座席（情報保障席）を設け、そこにモニターを設置する、あるいは筆談・手話などのスタッフを配置するという方法がみられた。聴覚障害者専用の設備や人員を一定の場所に確保する方法は、聴覚障害者が多く集まるスポーツイベントでは効率的に、かつきめ細かくニーズに対応できると思われる。

一方、大型の電光掲示板が見やすい場所に設置されている場合は、それを活用する方法もある。現在でも観戦者に向けた電光掲示板での情報提供はおこなわれているが、聴覚障害者にとっては十分でない。音声アナウンスで流される情報は、電光掲示板には表示されないことがあるためである。したがって、従来、音声のみで提供されていた情報が電光掲示板に文字などで表示されれば、聴覚障害者などこれまで情報が十分届いていなかった人も情報を得ることができ、かつ音声を聞きそびれた人なども電光掲示板で確認することができる。またこの方法は、前述の情報保障席のように聴覚障害者が1か所に集まっていない場合にも有効である。

さらには、障害者スポーツ大会では導入されていなかったが、個別に情報を提供する手法、例えば映画鑑賞や観劇の際に用いられることがある、小型の字幕表示用端末、タブレット、スマートフォン、眼鏡型の情報端末などで文字を表示する方法も、検討の余地がある。これらの方法を用いれば、モニターや電光掲示板を新設しなくても、情報を必要とする人に伝えることができる。

また、スポーツのチームや大会主催者のホームページ、SNS、スマートフォン・タブレット用のアプリなどを通じて、観戦者に情報提供する方法もある。それらのメニューのひとつとして、音声アナウンスを文字・手話で表した情報や、競技のルール、出場選手・チーム、試合の状況などに関して多言語の文字・音声で解説する情報が提供されれば、聴覚障害者だけでなく視覚障害者や外国人、競技について詳しく知りたい観戦者などにも活用されるだろう。

以上で述べたように、一般の観戦者向けの設備やサービスに工夫を加えることで、聴覚に障害のある観戦者などの情報入手の壁を低くすることはできる。また、聴覚に障害のある観戦者などに向けた設備やサービスを整えることにより、一般の観戦者の利便性や楽しさを広げられる可能性もある。障害の有無などにかかわらず誰もが施設やサービスなどを利用できることを目指す「ユニバーサルデザイン」の観点で、スポーツ観戦時の情報提供方法を検討することが必要といえる。

#### <臨場感を味わうための工夫も必要>

聴覚障害者など情報入手が困難な人に向けた情報提供というと、情報を正確に速く伝えることのみにとかく目が向きがちであるが、スポーツ観戦のようなエンターテイメントに関する情報提供を考える上では、観戦者がその場の雰囲気や味わったり周囲の人と体験を共有したりできるようにすることも重要である。その意味で、今回の調査の回答者から、スポーツ観戦時に応援歌や声援・歓声が聞こえないので応援に参加しづらく一体感を得にくいという意見が寄せられた点は注目に値する。

この問題の解決方法としては、電光掲示板に応援歌の歌詞を表示するという自由回答があった。それ以外の意見や事例が今回の調査ではみられなかったが、聴覚障害者もスポーツの応援に参加できるよう取り組んでいる事例はある。そういった取り組みは、聴覚に障害のある観戦者はもちろん一般の観戦者にも、スポーツ観戦の新たな楽しみをもたらしている。

競技場などで実際に観戦するからこそ体験できる臨場感をより多くの方が味わえるよう工夫することも、東京オリンピック・パラリンピック開催などに向けた課題であろう。

(研究開発室 みずの えいこ)

#### 【謝辞】

調査研究にご協力頂いた筑波技術大学産業技術学部の方々、および希望郷いわて大会の関係者の方々に、心よりお礼申し上げます。

**【注釈】**

- \*1 本稿の2・3章で紹介する聴覚に障害のある大学生対象のアンケート調査、および全国障害者スポーツ大会の事例調査の結果は、筑波技術大学の「スポーツ参加、観戦等における視覚障害者・聴覚障害者に対する情報保障および情報支援環境に関する研究」（実施責任者：筑波技術大学 教授 須田裕之、実施分担者：同 准教授 大塚和彦、第一生命経済研究所 水野映子）の成果の一部である。ただし、本稿で述べる調査結果の解釈や見解は筆者によるものである。
- \*2 磁気ループ（磁気誘導ループ、ヒアリングループ）とは、音声を補聴器で聞きやすくするための装置。写真③の事例のようにケーブル（ループアンテナ）を施設の床上などに敷いて仮設する場合もあるが、磁気ループがあらかじめ設置してある施設（競技場を含む）もある。
- \*3 今回のアンケート調査の回答者は、文章を読むことに対して苦手意識があまりなく、文字での情報提供を選好する傾向がみられた。しかし、聴覚障害者が文字・手話のどちらを選好するかは、年齢や育った環境、失聴時期、手話の習得状況などにより異なる。また、今回の回答者より軽度の難聴の人は、文字・手話より磁気ループなどを用いて音声を聞こえやすくすることを望む可能性もある。そのため、文字・手話・音声のどれを用いた情報提供を優先すべきかについては、より幅広い聴覚障害者の意見を聴取した上で、慎重に判断する必要がある。

**【参考文献】**

- ・内閣府，2015，『東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査』。
- ・文部科学省，2016，『平成27年度 文部科学白書』。